

平成29年度 九州大学大学院経済学府修士課程第2次募集入学試験問題 (一般選抜)

ミクロ経済学

次の2問の中から1問を選択し解答しなさい。

問1 ある完全競争市場を考える。操業に伴う一企業当たりの直接的費用は、生産量を  $x$  として、 $c = x^2 + 4$  で表される。また各企業はそれぞれ一人のオーナーによって経営され、オーナーが外部労働市場で稼得できる所得は5であるとする。

- (1) 企業経営中のオーナーが外部労働市場に参加することができない短期の状態を考え、一企業当たりの供給曲線を図解により説明しなさい (直接的費用はサunkコストではないとする)。
- (2) この市場が企業 (オーナー) の自由な参入・退出 (外部労働市場の利用) を考慮した長期均衡の状態にある場合について、一企業当たりの経済学的利潤および会計的利潤を説明しなさい。
- (3) 何らかの理由で、オーナー達が外部労働市場で稼得できる所得が上昇したとする。新しく達成される長期均衡では、一企業当たりの生産量は、所得上昇前と比較してどのように変化しているであろうか。説明しなさい。

問2 消費者 A, B の財に対する需要関数および供給関数が

$$d_A = 10 - \frac{p}{2}, \quad d_B = 20 - p, \quad s = p - 5 \quad (p \text{ は財の価格}) \quad (*)$$

で表されると仮定する。ここで、財を排除性と競合性の観点から私的財 (排除性: 有り, 競合性: 有り), 準公共財 I (排除性: 有り, 競合性: 無し), 準公共財 II (排除性: 無し, 競合性: 有り), 公共財 (排除性: 無し, 競合性: 無し) の四種類に分類する。なお、公共財, 準公共財 I, II に関しては政府が供給するものと仮定する。

- (1) 排除性と競合性の意味をそれぞれ説明しなさい。
- (2) 私的財の需要と供給が (\*) で表され、市場が競争的であるとき、市場均衡を求めなさい。さらに、均衡の効率性に関して説明しなさい。
- (3) 公共財の需要と供給が (\*) で表されるとき、最適な供給量を求めなさい。
- (4) 準公共財 I, II の具体例を挙げ、各需要と供給がそれぞれ (\*) で表されるとき、最適な供給量およびその場合の価格を求め、相互に比較検討しなさい。